



病院を中心としたサステナブルな街づくり 屋根のない総合病院

屋根のない総合病院 が生まれるまで

「その人が、その人の望むところで、その人らしく生きる」

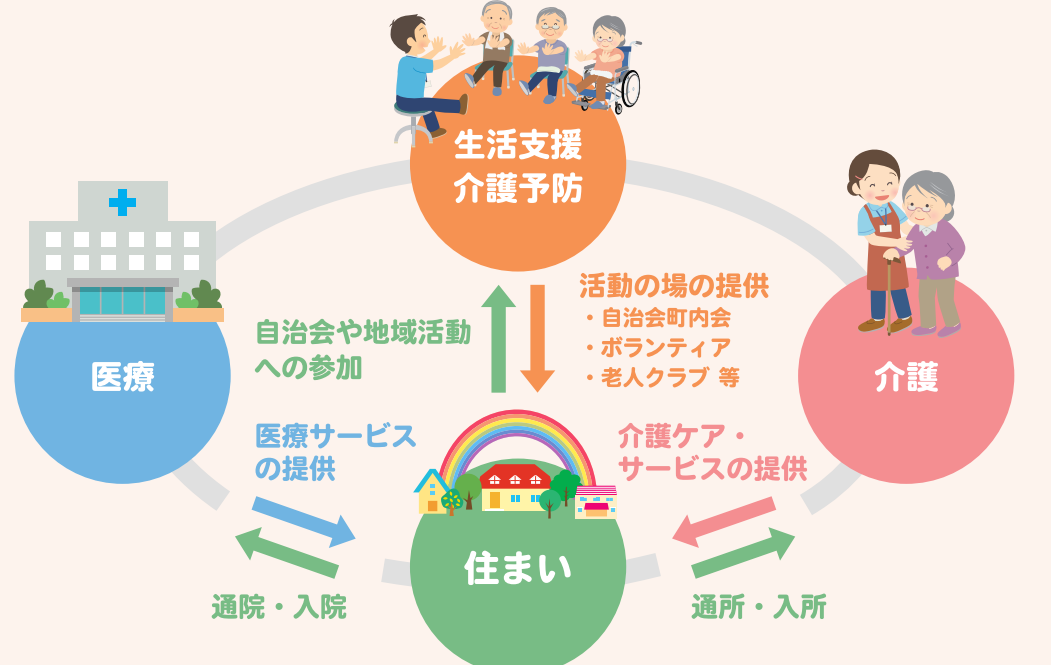
千葉県船橋市は人口65万人、高齢化率は24%の地域です。今はまだ地方と比較すると高齢化率は高いほうではないものの、近い将来医療・介護資源が不足します。そのときに超高齢化社会を支えるためには、切れ目のない地域支援体制を築かなければいけません。私達は医療・介護・福祉において、必要なときに必要なサービスを受けられ、さらにその人の人生を輝かせてこそ目標が達成できると考えています。

Mission 地域コミュニティの構築

当院は船橋市のなかでも都市部に位置しており、若い世代の流入も多い地域です。そのため住人の関係性は希薄であり、**地域包括ケアシステム**の実現に必要なコミュニティが構築されていませんでした。

包括的なケアを実現するためには、その土壌として地域のつながりが不可欠です。この組織的なデザインが描けていないまま、包括的ケアの必要性だけが先走っても仕組みがあるだけで機能不全になってしまいます。しかし、地域の人々が、お互いにつながるネットワークを構築するのは簡単ではありません。行政だけでは難しい部分もあると思います。安心安全を守るインフラとしての非営利団体である『病院』だからこそ**可能なコミュニティの場作り**があるのではないかと考え、2019年から地域住民の健康寿命延伸と**高齢者の孤立予防のための多世代の交流の場づくり**を主な目的とし地域活動を始めました。

これまでの病院は、病気をケアを診察し処置する場所であり、何もなければ行く必要もなく、出来ればなるべく行きたくないと思われている場所だと思っています。病院がコミュニティの場となるには、老若男女問わず、健康な時から病院を身近に感じてもらわなければならないと考えました。しかし、参加してくれるのは健康意識の高い人も同じ方ばかり。ありがたいことではありますが、『健康無関心層に働きかけるにはどうしたらいいか』『多世代に関心を持ってもらえるものは何だろうか』そんな課題を解決する糸口となるよう、地域の方がコミュニティの場として求めていることを知るため、**職員が地域へ出て行き、地域の方との交流の中でヒントを得て、病院で実現可能な非日常体験**を検討しました。



地域包括ケアシステムとは

医療・介護・予防・住まい・生活支援を一体的に提供する仕組みであり、地域で高齢者を支え、要介護状態になっても、その人がその人の望むところでその人らしく暮らし続けられる環境をつくることが求められています。医療・介護・福祉が連動して患者さんをサポートする包括的なケアには、地域のつながりが前提となりますが、それを都市部に求めると課題があります。

屋根のない総合病院 3つの取り組み

01 コミュニティの場創り



子ども食堂については、来てくれる子が偏見の目で見られることがないように、また子供だけではなく独居の高齢者や家族連れなど、誰でも楽しく過ごせる場所にしたいという思いを込めて『いたくらごはん LABO』と命名。地域の高校生から70代と幅広い年代のボランティアの方に支えられて、6年目を迎えました。自治体の方が子供たちに折り紙やコマなど昔の遊びを教えてくれるスペースを設け、交流の機会をつくることで地域の方にとって不可欠なコミュニティの場となりました。

また、病院の理念に共感し情報発信を一緒にしてくれる、病院公認の地域サポーター（いたくらん）を任命しています。日頃、病院からの発信では聞き流されてしまい受け取ってもらえない情報がたくさんあります。しかし行動変容を起こさせない発信は、極端に言えば病院の自己満足でしかありません。そこで、『いたくらん』に任命した方には名刺を作成し、我々の仲間として活動してもらっています。地域で生活している方だからこそできる、日常の中での世間話の一環として『高齢化社会に向けて地域のなかで健康で過ごさなければならない』『病院は怖いところではない』『共助の重要性』『予防の重要性』などを共有してもらうことで、地域イベントへの参加、健診受診率増加、子ども食堂への食材寄付の申し出などが増え、地域の方と一緒にコミュニティを共創できていると感じています。

予防の重要性 ワクチン接種や健診の受診率UP予防の重要性 未病の状態での早期受診や、健診で早期に病気を発見することで根治が可能になるだけでなく、国全体の医療費の削減にもつながります。

子ども食堂いたくらごはん LABO
場所 板倉病院6階コンファレンスホール 日時 第3土曜日 12:30～なくなり次第終了
費用 中学生まで無料 / 子ども同伴者300円 / 大人500円
子ども食堂のボランティアスタッフを募集しています。詳しくはお電話にてお問い合わせください。

02 より多くの人に向けた社会創り



人口の多い船橋で更に高齢者を置き去りにしない社会づくりを浸透させていくには、病院だけでは困難なため、同法人の介護老人保健施設のある地域でも取り組みをはじめました。2024年秋、施設の建て替えにあたり、旧棟解体の前に医療界初の実験祭を実施。旧棟設立から26年間。保育園も併設されており、船橋の0歳から100歳までの方の人生の一部分に寄り添ってきた建物に地域の方と一緒に感謝とお別れを告げることで、新たな一歩を地域とともに歩き出す覚悟を示すイベントでもありました。

解体祭の様子は
こちらから



03 学生との新たな取り組み



介護老人保健施設は、終の棲家ではなく、リハビリをすることで在宅復帰をする元気を養う場所です。『施設＝我慢して行くところ』のイメージを覆し、楽しく元気になる施設を目指しています。武蔵野美術大学との合同展覧会は、身体のリハビリに加えてアートに五感で触れることで、またそれぞれの場所で活躍できるようにパワーを入居者の方に届けたいと考えました。医療・介護・芸術が繋がり、共に健やかで豊かな社会をつくる営みの始まりの一步となりました。入居者の方だけではなく、ご家族、一般市民の方にも見学していただいたことで、施設に預ける家族の罪悪感も払拭することができたと感じています。



GOOD DESIGN AWARD
2025年度受賞

医療法人弘仁会の地域デザインの取り組みが、このたび2025年度グッドデザイン賞(主催「公益財団法人日本デザイン振興会」)を受賞しました。高齢化社会を支える地域包括ケアシステムの確立のため、コミュニティの構築に必要な土壌づくりとして、非営利団体である医療法人がハブとなり多世代交流の場を作るため行ってきた取り組みが高く評価されました。今回の受賞を契機に、市民の健康寿命延伸と高齢者を置き去りにしない社会づくりへの理解を更に深められるよう地域との繋がりを大切に、医療・介護・福祉の側面から持続可能な街づくりに寄与できるよう努めてまいります。

審査員評価コメント

切れ目のない地域医療・福祉支援体制の実現には不可欠でありながら構築の難しいコミュニティ。その課題に対し、病院の職員自らが出で、病院だからこそ可能な新たなつながりづくりに取り組んでいる点が注目される。特に、都市部というコミュニティが希薄になりがちな環境において実践を積み重ね、多世代を結び活動として徐々に認知が広がっていることも意義深い。これからの時代、誰もが直面する地域全体での共助の必要性に対し、専門家と住民が交わりながら暮らしを支える仕組みを模索する姿勢は、多くの地域に伝播を与えらるべきである。地域医療が「屋根のない総合病院」として街に開かれ、住民と共に未来を描くという取り組みに強い感銘を受け、高く評価する。